

---

---

## 開会の辞

御出席の皆様。

文部科学省の「グローバル COE」プログラムのもとに、人文科学の深奥を探求する第 2 段階の探究に乗り出してから、はや 5 年近い年月が流れました。2002 年から 2006 年にかけての 5 年間におよぶ第 1 のステージは「統合テキスト科学の構築」と題されていました。こちらの目標は、文字であれ、図像であれ、口頭によるのであれ、身体所作によるのであれ、人間が他者とのコミュニケーションに用いるあらゆる手段と形式に共通する一般原理を発見することでした。

5 年間におよぶこの共同研究の達成により、私どもはテキスト研究のための豊かな学問的資源を蓄積することができました。そしてこれを知的資本として現在の「グローバル COE」プログラムという、より一層厳しい競争が待ち受けている新しい政府プログラムに挑戦しました。

この度、政府はプログラムを研究に代わって、大幅に教育を重視する方向に変えました。それというのも日本の高等教育の教育面の現状に鑑みて、この点を最も重視すべきであると考えたからです。いずれにしましても、私どもは 2007 年に再び文部科学省の選考委員会を説得することに成功しました。このようにして、私どもが担当する博士課程の学生向けの特別講義を創設して教育にあたるとともに、この 5 年間で合わせて 12 回の国際研究集会を組織することができました。今回はしたがって、第 13 回の国際研究集会、強調しておかなければなりません、グローバル COE プログラムのもとで開催する最後の国際研究集会ということになります。

本国際研究集会が、政府による財政的支援を得て来た 5 年間の共同研究の掉尾を飾るにふさわしいテーマを設定していることを非常に嬉しく思います。その標題は「哲学的解釈学からテキスト解釈学へ」となっていて、哲学的解釈学の豊かな成果を絶えず参照しながらテキスト解釈学を構築し、錬磨する方途を探究する内容です。本日から 3 日間の発表と議論はすべてこの問いをめぐってなされる筈であります。松澤和宏教授は森際教授の協力を得て、この国際研究集会の計画を立案し、実現に努力されました。

私は私どもの招待を受けてご参加下さり、自らの貴重な研究と思案の成果を披瀝することに同意して下さいました。ことに二人の海外からの報告者であられるジャン・グロンダン教授とピエール・グロード教授に、ご多忙のなか、本日から始まる国際研究集会のために長距離の飛行を厭われなかったことに、殊に感謝を申し上げます。

同じく日本人の同僚の方々、なかでも東北大学教授で同大学の理事を務めておられる野家啓一氏に感謝申し上げます。私はまた報告を引き受けて下さり、貴重な知見を披瀝下さる方々、佐々木一也、真野倫平、鎌田隆行、アンドレイ・マルマー、長谷部恭男、濱真一郎の諸教授にも感謝申し上げます。

名古屋大学の同僚で、報告を引き受けてくれた金山弥平教授、クレール・フォヴェルグ准教授、森際康友教授にも感謝の挨拶をおくります。

最後に、そしてとりわけ、この国際研究集会の仕掛人であり、熱烈に今回の知的邂逅を願望した友人であり同僚の松澤和宏教授に感謝を申し上げる次第です。

ご清聴ありがとうございました。

グローバル COE プログラム「テキスト布置の解釈学的研究と教育」拠点リーダー  
名古屋大学大学院文学研究科特任教授 佐藤 彰 一